

大樹に前線基地設置へ

ロケット研究活用期待

室工大

機材運ぶ必要なく 長期実験が可能に

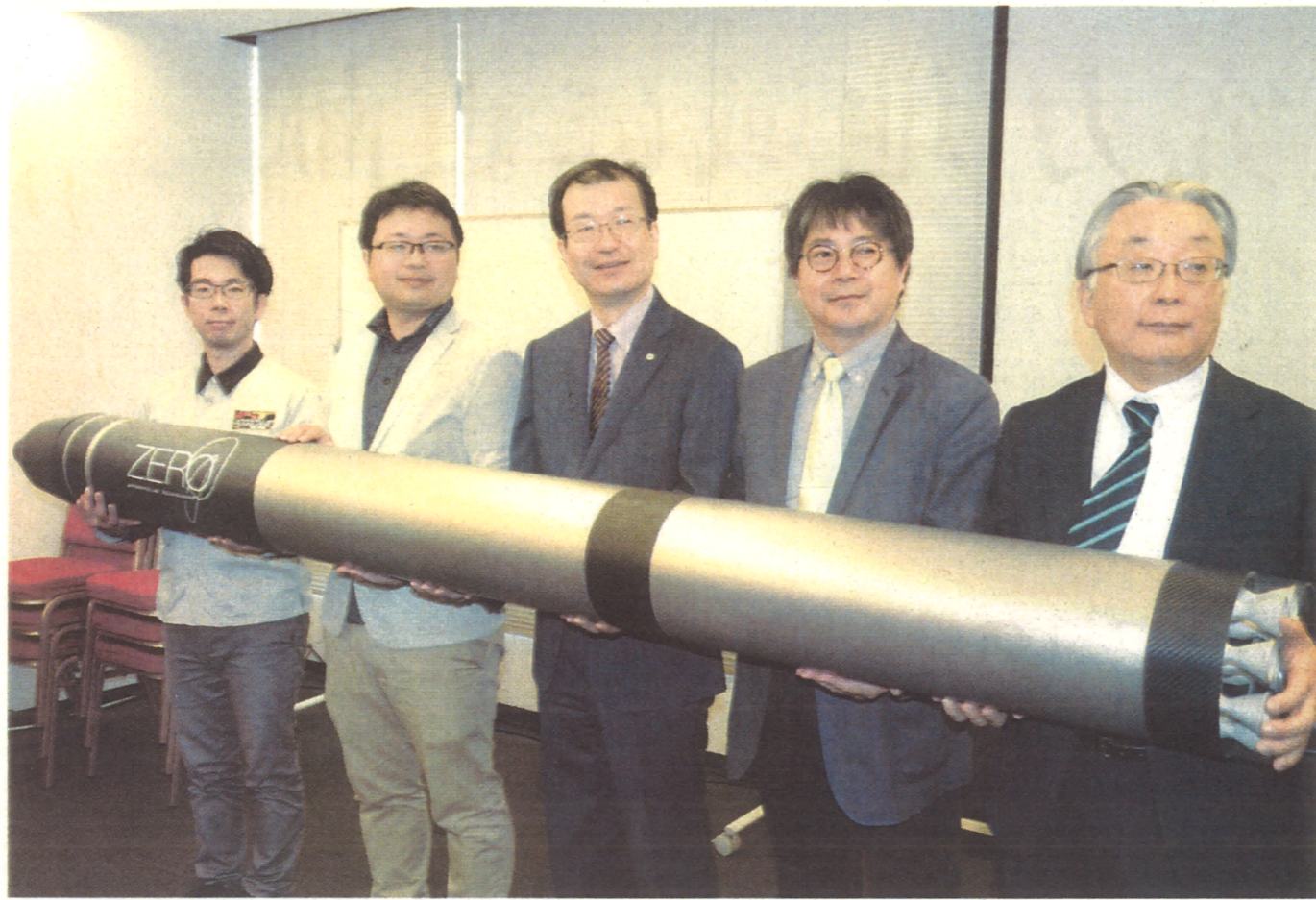
室蘭工業大学（空閑良壽学長）が工学部から理工学部への改組を行い1年、同大では「確かな研究力をベースとした教育力」をテーマに、優れた人材育成を図るとともに地域企業と共同研究し、公開講座などで地域連携も活発に行っている。

室蘭工大のルーツは1887年（明治20年）開校の札幌農学校工学科。理工学部への改組は従来の工学系に加え、人工知能（AI）など理学系の知識にも精通した人材育成を強化することで企業や学生のニーズに応える。最先端の宇宙開発分野

めの前線基地としての活用が期待される。これまで室蘭工大は、同町で超音速無人実験機「オオワシ」の飛行実験や自動走行車両の実験などを実施。航空宇宙機システム研究センター長の内海政春教授は「大樹町の滑走路は路面状態



上空から見た室蘭工業大学キャンパス



インターステラテクノロジズとの共同研究も進む

がよく、長さも白老町の実験施設より長い。サテライトオフィスがあれば機材類を室蘭から車で運ぶ必要もなくなり、滞在しての長期実験が可能になる」と語る。

現在同センターでは、同町で3千級級の高速走行軌道実験設備（ロケット・スレッド）を計画中で、同町が進める「北海道スベスポート構想」に盛り込まれている。サテライトオフィスは住民への説明を経て設置。同町での出前授業なども実施する方針だ。

室蘭工大はこのほかにも子ども向けのサイエンススクールやロボットサッカークラブ、市民協働での工大内のカフェ設置など、地域との連携も活発。コロナ禍で学校祭をはじめとするイベントが中止となる中、6月にはテレビ会議アプリ「Zoom」を使った市民公開講座を開講。米国航空宇宙局（NASA）アジア代表のガーヴィー・マッキントッシュ氏の講演に宇宙に興味のある市民ら約400人が集まった。

室蘭工大の誇る「確かな研究力」

理工学部への改組から1年

な研究力はさまざまな形で評価されている。朝日新聞社出版の「AER AMM」大学ランキング2021年版で同大は、研究力の指数である「論文がどれだけ引用されているか」を示す、論文引用度指数ランキングのコンピュータ科学分野で3年連続1位となったほか、工学分野でも2位となった。

9月2日にタイムズ・ハイヤー・エデュケーション（Times Higher Education）が発表した世界大学ランキング2021で、同大は、北海道地域では北海道大学（501～600位）に次いで、札幌医科大学とともに（1001位）にランクインした。

世界大学ランキングは世界の大学を「研究力」を主な指標として、教育、研究、被引用論文、産業界からの収入、国際性の観点から評価するもの。日本からは116大学（うち国立大は57）がランクイン。全国で34位タイという高い評価を得た。



開発を進める小型超音速飛行実験機「オオワシ」の機体